

早朝から出かけて夕方 6 時にやっと、岡山駅に着きました。物好きにも私は、会場 PEPPERLAND まで 30 分弱歩いてみました。開場 7 時直前だったのに待つ人は妙に少なく、しかも実際には開演直前の 8 時頃にしか開場しませんでした、ほのぼのです。

で、毎度の顔見知りと喋って待ちつつやっと開場。会場に入ってみると、もしかしたら 8 畳もないのではというくらいの狭いところでした。3 列目のいすを確保したものの、後ろで立ち見してもさほどステージが遠くならなかったことでしょう。

そして開場後まもなく、8 時過ぎにはちゃんと開演しました。前座の架空楽団の皆さんが、決して広くはないけれどもなるほど慣れた様子で入場です。8 月東京公演からは一転、もう髪は黒に戻されていた黒瀬さんをはじめとして、山田さん石原さんをフロントに、今回は男性メンバーで固めての登場です。

「ビデオボーイ」に続いては、「Y.B.J.」「グルーピーに気をつける」...、本家ライダーズでは果たして今後聴けるかどうか、という珍曲揃い。最後に月末のライダーズニューシングル「SweetBitterCandy」が、8 月(フロント 3 人によるアコースティックスタイル)とは違いバンドスタイルで披露されました。本家(笑)のニューシングルに期待を寄せつつ、やはりいい曲だなと実感させます。

そして黒瀬さんから、いよいよかしぶちさんの登場、とのアナウンス。

(このツアー中で、セットリストの)「曲がだんだん増えていってるんだけど...減ってないんですよ。」の言葉は会場の笑いを誘いました。「今日は 12 時までやるつもりで...」だとか(実際にも、最後のアンコールが終わって気づくとまもなく 12 時だったんです。)

キーボードの板倉さんとともに、かしぶちさんの登場です。まずはこの 2 人(かしぶちさんはギター)で「マルチネ」「FrouFrou」「柔らかいポーズ」「愛のコロニー」「リベルテ」と立て続けに 5 曲。かしぶちさんのソフトな歌声には何か包容力のようなものさえ感じたり、あるいは時折危うさも手伝って、きっと女性ファンにはたまらない魅力なのでしょう。また、この日のライブ全編に渡ってのことですが、板倉さんのキーボードは何と素晴らしかったことでしょう。プログラミングされている音にせよリアルタイムでのプレイにせよ、かしぶちさんの曲想に実に忠実で、それでいて決して目立ちすぎることなくサポートとしての位置を保っていました。トータルな雰囲気としては「スペーシー」とでも言いましょうか。

続いて、板倉さんに代わり上田美由紀さんの登場。となれば続く曲はもちろん、「Fin」からのデュエット・ナンバー。かしぶちさんはその紹介に、「この曲は...歌詞がエッチです。そして次の曲は...エッチです...」と、しっかり皆を笑わせてくれました。曲は、「オブジェの花」「エゴイスト」「恋のためらい」。上田さんのヴォーカルは原曲にけっこう忠実で、それでいてやはり彼女なりの魅力を感じさせます。そして、男の目から見ても魅力的な方でした。

そして上田さん退場のあと、かしぶちさんはキーボードの前に座ります。まずは「S.E.X.」そして「砂丘」。どこでどんな形態で聴いてもこの曲はどうしてこうも名曲なのでしょう。ことさらこの「弾き語り」スタイルには好感を覚えます。何だかいい言葉は浮かびませんが、とにかくたっぷり満足させていただきました。

そして、ある意味ではこの日の目玉かもしれない、再び上田さんと板倉さんが入場し、1年半ぶりに「TokyoRose」の復活です。上田さんの書いた詞がこのツアー中にFAXで届けられてできたという、まさにできたての新曲(板倉さん作曲)「BirthVision」を披露してくれました(かしぶちさんはドラム)。曲の方向性は多少違うのですが、かつて板倉さんが野田幹子さんに書いた曲「Rain Forest」に似たイメージを抱きました(あくまでも私情ですが)。ここでも彼のキーボードサウンドは静かでありながら力強い空間を創造していました。

続いてかしぶちさんがギターを持ち、「花のイメージ」へ。

ステージはかしぶちさんソロモードに戻り、次の曲は「DeuxCiel」。個人的にかなり気に入っている曲をやってくれるのはやはり嬉しいものです。続いては「クリニカ」。他会場で行っていたと聞いてはいたものの、今年になって聞いたばかりのこの曲が目前で聴けることに特別のありがたみを感じます。

ライブも佳境に入って、ここからは岡山でこそそのスペシャル、架空楽団との共演の始まりです。かねてから「いつかいっしょにやろう」とあたため続けていたとのことで、それが実現したこのライブに居合わせることでできた幸せを感じます。まずは8月の東京公演での初披露も記憶に新しい、かしぶちさんVo.の「プラトーの日々」。それにしても何と「カッコイイ」曲なのでしょう。その一方、思えばこの曲をここまでコピーする架空の皆さんには頭が下がります。続いて「釣り糸」は架空の山田さんとのデュエットで。さらに「かしぶちさんの曲以外で好きな曲を」との架空の皆さんからのリクエストにかしぶちさんからの答えとして「青空のマリー」。これもここ岡山だけの、架空あってこそそのスペシャルでした。聴いている我々はもちろんですが、誰よりも気持ちよかったのは歌うかしぶちさん自身だったのではないのでしょうか。

盛り上がるステージから架空楽団の皆さんは去り、ステージには板倉さんが戻ってまたかしぶちさんパーソナルのコーナーです。ライダーズ新譜「月面讃歌」から、「月面サマーツアー」では披露されなかった曲をやります、ということで個人的に大喜びしてしまいました。なんでも、ツアーのリハーサルで新譜収録曲をコピーしてみるものの、かしぶちさんの曲は「ムズカシイ」ということでなかなか採用されないのだとか。ここでこうして歌っていただけるとは、お礼を言いたい気持ちです。

「で、どちらの曲を？」なんて思っていたら「君には宇宙船がある」「服を脱いで、僕のために」の順に二曲とも歌っていただきました。改めて名曲だとかみしめつつ、続く名曲「バックシート」そして「リラのホテル」へ。その後上田さんも入って、「OK パ・ド・ドウ」。「時はドアの向こう ドアに鍵はない 心配いらない 恋はパ・ド・ドウ」のリフレインを、会場中で歌い上げました。最後に板倉さん、上田さんも退場してかしぶちさん一人で「Beep Beep Be オーライ」。ライダーズとの違いにかなり特徴のある歌い出しも、私個人としてはもう何度か聴いていて親しんだものになっていました。

これを「一応」最後としてかしぶちさんも退場です。

もちろんこれで終わりはせず、アンコールに応じてかしぶちさんと板倉さんの登場、「火曜日ならベルギーよ」に続き、上田さんも入って「TokyoRose」で「アイドルを探せ」と続きます。そうして上田さんと板倉さんに代わり架空楽団がステージに上がり、最後の盛り上がり上がりの始まりです。曲は今以てライダーズのライブでも定番の「スカーレットの誓い」を、ソロライブでこそのかしぶちさんの Vo.で。続いてかしぶちさんはドラムに移り、もはや架空楽団の十八番ではとさえ思ってしまう、「Happy/Blue'95」で一気に加速していきます。

その勢いのまま、板倉さんと上田さんも入って全員でアンコール最後の曲として「ひまわり」。かしぶちさんはギターに戻りかつ伸びやかに歌い上げましたが、ヴォーカル部分が終わるとまたもドラムへ向かってくれました。そのまま、架空楽団の「殿下(片島博文氏)」とのツインドラムがダイナミックに響き渡ります。日本最古のロックバンドのドラマーであるという彼の位置づけを再認識させてくれる演出に、聴衆からは惜しみない拍手です。個人的にも最も好きな曲といえるこの曲で、こんな素晴らしい時間を共有できてしまうとは、何とも感慨無量です。

さて、「何曲でもやるよ」というスタンスで行われているこのツアー、やはりこの後にも更にアンコールが続いたのでした。架空楽団フロントの皆さんと、かしぶちさんのドラムで「BEATITUDE」。

大盛況のうちに 30 曲に及ぶライブは終了しました。しかし、元々当日の晩に宿をとる予定のなかった私やその他同様の皆さんにとって最も濃密に堪能できた時間は、おそらくその後にその場(会場 PEPPERLAND)で全ての出演者とともに行われた「うちあげ」であったでしょう。ライブから通じて一晩の素晴らしい時間を提供いただいたかしぶちさんをはじめとして、架空の皆さん、TokyoRose の皆さん、そしてスタッフの皆さんには謹んでお礼を申し上げます。 / S e i

HP 掲載に当たりオリジナル原稿より改行位置変更させて頂きました。
(櫻の会 KRAFT.WARTZ)